

STIGS

Y.W.V.???



みはるかす

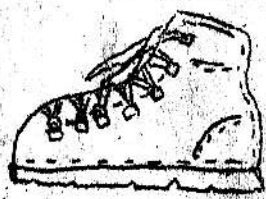
一、みはるかす青海原に
のびゆきて及ませぬもの可
我が思い

緑野を丘に登りて
共に語らん共に学ばん
我が友よ



二、新しい世をつくるもの
光あり望みを胸に
我が道を

海いのなきその日々を
共に進まん共に学ばん
我が友よ



あ

か

愛の歌 1

赤いサシヤ 58

秋のまはりのこ 58

あまみづのた 59

あなただの心に 50

あつたのまはりのこ 20

マリンの歌 48

いろはの歌 2

海は恋してる 53

エニルライス 34

エニルライス 4

縁切草 64

嵐 67

加茂の流れに 59

北上夜曲 11

北風の歌 25

希望の南アルプス 45

東のこけの南 53

今日の日はさよなら 32

舞臺の歌 60

銀色の道 39

黒の舞囃 70

心の旅 63

心とエロ 63

二蔵王の歌

六甲山とロケット 26

サレビツの花 51

残雪 22

た

山谷ブルース 40

四季 12

ミコトの歌 37

ミヤロム 18

信濃の恋歌 9

少年探偵団 52

精霊流し 44

白いやま 66

新人京歌 48

スギの囃子 31

横鏡の若さ 7

外は吹雪 32

水鶴がくもた季節 43

谷川ふたの季節 5

小豆の季節 43

小豆の季節 57

な

千手ちやん 62

遠い世界に 42

遠くへ行きたい 61

遠くまで汽車をききながら 55

反り 20

トロイカ 38

なつ川雪 8

なつ川 15

夏の思い出 38

涙をこえて 21

入笠山のつた 67

22才の別れ 47

鹿を山たつて 23

花の首飾 46

パネがなつた 33

横鏡歌 41

ほ

山のうた Part 1

赤いヤッケ

一 赤いヤッケに夕焼け小焼け
 けんにお前はあしやれ者
 山よさよなうみふなよ山よ
 ※ 所に帰って行くおれを

二 抱えられたよ水や雪を
 抱いてこつえりる山に※

三 山よわかるかピッテル握った
 山の男のあいさつを※

四 いつかあの娘とウエディングベルを
 山の頂上まで鳴らしたい
 山よさよなうみふなよ山よ
 所に住めない俺にから

いつかある日

いつかあの山で死んだら
 古い山の友よ伝えてくれ

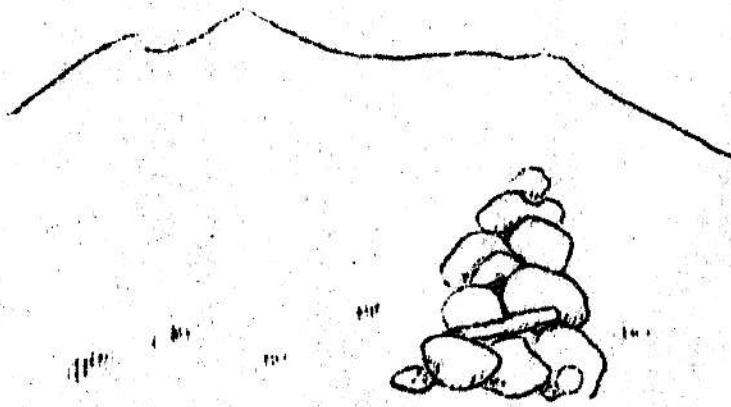
女親に付安らかだったと
 男らしくく死んだと父親には

伝えてくれいとしい妻に
 他は帰らなくとも生きて行けと

息子達に俺のふみ跡が
 故郷の岩山に残っているよ

友に送る俺のハンマリー
 じトンの歌声を聞かせてくれ

俺のケルン美しいフエースに
 朝の陽が輝く広テラス



穂高よさらば

穂高よさらば
また来る日まで
思い出深きジャンダルム
帰り見すれば
運こひかる
奥穂につづく 山の道

穂高よさらば
サに采る日まで
梓に著き山の木
還り見すれば
遠ざかる
夕日に赤き前穂高

シーハイルの歌

一、岩木のおろしは吹くなら吹けよ
山から山へと我らは滑べる
昨日は熱珠嶺 今日また阿闍羅
煙立てつつ おおシーハイル

ニ、ステップ ターン すりゃたわかれかかる
杉の梢よ 未練の雪よ
心は残れど エールにとどめ
クリスチマニアで おおシーハイル
ニ、夕焼け赤々 シュパール梁めて
たどる雪道 果てさえ知れず
所にはららけら 灯がついた
ラッセル急げよ おおシーハイル

ユーデルワイスの歌 (法大山岳部歌)

(春)

雪は消えぬと春未だしめ
風はなごみて陽は暖かし
水河の切りを滑りて行けば
山影に映くアルペンブルー
紫匂う都をあとに
小に憧れ若人の郡北

(秋)

影屋ごやかに空澄みめたり
葉ずえの唇に秋正らめめ
女神のこことご自棒の森
金と銀とに兼いこらし
紅燃ゆる山より山へ
行方も知らずまら行かん

(夏)

エーデルワイスの花微笑み
舵さ岩角金堂に照り
山け目覚めめ夏の朝風
乱風ふさまり夕空晴れめ
命のガイルに我は身を托し
慰わす御ぐアルペンブルー
X

(冬)

吹雪は叫び坂道
氷垂る小屋のあり方も知れず
おあ、この雪山重畳として
シーロイフア、行手を閉ざす
おあ、この雪原は凍として
寒月鏡くシニチール照らす

谷川ズンドコ節

一
夜の野のプラツトホム
可愛いの娘が涙で止める
止めて止まらぬおいらの心
山は男の度胸だめし

二
泣いちゃいけない笑顔に
たかおのばしの別れは
恋しお前の泣き顔みれば
サイルさほきの手がにふる

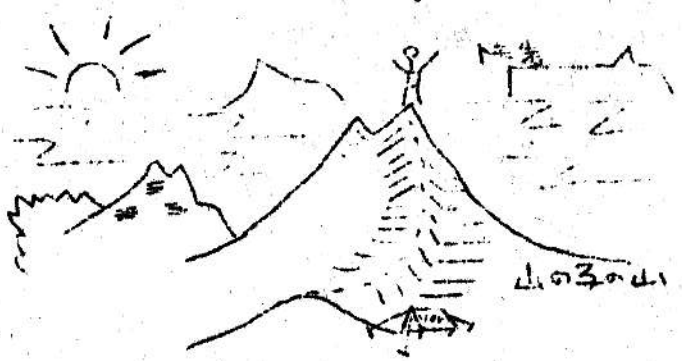
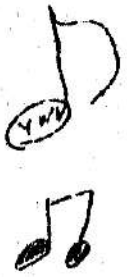
三
料なナロルにサイルを肩に
行くま谷川ちよいと倉
仰ぐ老屋月日に暁か
今日ほコツプか港深か

山の子の歌

一
歌声があひの谷間に響けは
あひの森あひの谷間の歌
山の子は山の子は歌が好ま

二
雨が降りテイル坊主が泣いても
雨は泣かぬ山の子はみんな
山の子は山の子はみんな

三
雲が去り青い空が見られりや
歌いましう山鳩の兄と妹
山の子は山の子はみんな仲良し



四
行こうか戻るか
南橋のテラス
も行けよおの娘が涙を流す
もどりやおいらの心
がすたまる
山の男はつらいもの



山の先輩

- 一 星降り月の凍る朝
山の三ツ星がオリオンと
教えてくれた山の先輩
あなたはどこへ行くのです
- 二 口ウソク揺れる吹雪の夜
懐し故郷の民謡を
歌うたはとこへ行くのです
- 三 小花畑の草の中
小さな可愛い車百合
見つけてくれた山の先輩
あなたはどこへ行くのです
- 四 小花畑の草の上
小さな可愛いさくらんぼ

存たの(明大ワシゲル部歌)

- 一 森深く迷いたれば
古きなためは道なき
人の心のしめじみ
なつかしうれし
不暗き道に
- 二 粗末いかにありとも
努め拓きて共に
疲のしるべを刻みつ
仰ぎて行かん
真白き峰を



精銳の岩燕

山に想いかける寂しき岩肌
淋れき山小屋は我らの故郷よ
自然の中行く若者の姿は
舞しい仲間よ精銳の岩燕
冷たき谷の水流れる日雲よ
谷川を登るうさぐいに身を固め
晴れた空行く力強き声は
何にも負けない精銳の岩燕
朝は遠程に向かい夕べ谷に帰る
暮れ行く西空に山は赤く映える
静まる大地に世の虚しさを知る
安らかに眠れよ精銳の岩燕
想い出ぬまを淋しきこの胸に
いつてもよみがえらぬ翅の頂上
氣を強く結べ我らの仲間よ
群れ飛ぶ翼は精銳の岩燕

岳人の歌

- 一 星が降るあのコール
グリセードであの人は来るかしら
花をくわえて アルプスの恋歌
心ときめくよ なつかしの岳人
やさしかの君
- 二 白樺にもたれるは
いと抱いて アルプスの黒百合
脚に抱いて アルプスの黒百合
心ときめくよ なつかしの岳人
やさしかの君

信濃の恋歌

一 俺の想いけす穂高の峰々よ 五 けるか連山の雪煙のそめばよ
 針の木五重とよ 風けさこやくよ
 信濃の恋歌

二 白馬くたればよ駒草咲いてよ
 想い出すのけよ
 あの娘のえくほとよ

三 かつか二人てよ降々越えてよ
 共に語るとよ
 二人の幸をばよ

四 何故に暖かきよう才雪草かよ
 逆さしあの娘けよ
 帰りはせぬによ

ダンチヨネ節

風紀名門の子女に恋するを純情の恋と誰か言ふ ヨイシヨ
 路傍にさまよう女性に恋するを不情の恋と誰か言ふ ヨイシヨ
 雨降らば前降るよし 風吹かば風吹くよし
 泣いて笑って月下の酒場にコビ売る女性の中にも
 本蓮のごとき純情あり ヨイシヨ
 酒は飲むべし百華の長 女買うべし人生至上の快樂
 幼少美人の腰机に快樂の一夜を明くれけし
 流れる汗にサイルをかつぎかか腕にピッケルかかげ
 あめ我等山行く渡り鳥 明日の会を誰か知る

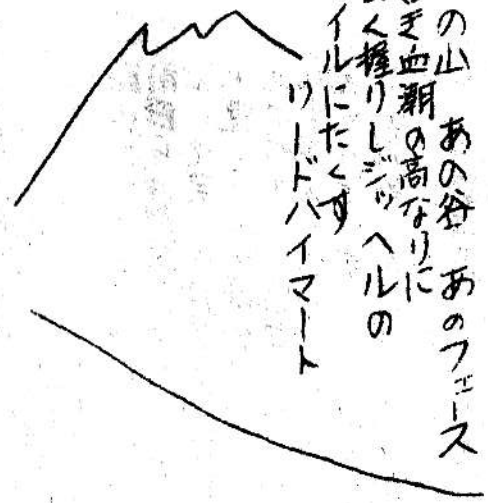
一 山の男は荒らく水者よ
 たすどたまにはね
 花も摘むダンチヨネ
 四 可愛いあの娘のね
 湯を見るダンチヨネ
 山の男と飛行機乗りはね
 どこか谷間でね
 果てるやらダンチヨネ
 山の男にや娘けやれぬよ
 やれぬ娘けね
 行きたがるダンチヨネ
 五
 二 花は飾めども山男にけよ
 それを捧げるね
 人もないダンチヨネ



北岳の歌

一、 想いはるかかな北岳の
 想の嶺につびいたる
 我が友よ たからかに
 いざや歌わん
 リードハイマート

二、 あの山 あの谷 あのフェリス
 若き血潮の高なりに
 目く握りしジツヘルの
 ガイルにたくす
 リードハイマート



四季

一、 春を愛する人 け心清き人
 日影に咲いたすけのような
 ほくの友達

二、 夏を愛する人 け心強き人
 岩をくだく波のような
 ほくの父親

三、 秋を愛する人 け心深き人
 愛をかたむハイネのような
 ほくの恋人

四、 冬を愛する人 け心広き人
 積雪をどかす大地のような
 ほくの母親



ボケッタザック

一、 ボケッタザックに詰めこんだ
 キヤラメルとげ針に糸
 輪かんにはピッケルアイゼン吊し
 ネイルアトリツに油くれる

二、 夏は焼けつく炎天に
 うんざりするよくな長歩き
 ドッペル仲間よもつ一息だ
 一本たてるはそれから先だ

三、 峠は近いがこの辺で
 じバクするの 明日のためた
 たつぷり見ておけアルペングリューメン
 テント作りはまし引き戻けた

四、 攻めるは北の岩壁だ
 ガイルハルケン稜谷へて
 キムルニルニゼとジウヘルすれば
 オールバーハングはもう俺のもの

山小屋の灯

雪山に消えたあいつ

一 山小屋の灯は 夜の闇に灯りて
 静かに山を照らす
 もとの山小屋は
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 山が命を失ったあいつ
 山を一生愛したあいつ
 雪の積もった山小屋に
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ



雪山山賛歌

一 雪山の山は 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 雪山の山は 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

一 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ
 静かに雪に覆われ

旅の歌（北帰行にまさる）

- 一 今日も静かにくれて
ヒヨ子に灯ともる
いろり園み思い果てなし
明日はいずこの峰か
- 二 あわれほかなき旅よ
人はみな旅人か
何を嘆き何をかいたま
憧れの峰三えて
- 三 帯は昔にかえり
えにし山川をなし
とぞろ一人うきねの旅路
あしたはいずこの峰を

Let's Sing 月
in English

夜のうた

送き山に 月はあちて
星は夜き ざりほめわ
三日のわざををしおんで
心かろくぐすこえは
風はずし この夕べ
さで舞しき
まじいせん

二 闇にもえし かなり火は
炎 歩はしすまりて
漸れてすくいとえよと
さそつごとく向ふわけは
やすきみ午にゆらぬで
いさや楽しき
響をみん 若五かん

夏の虫はい出

夏が来れば 虫はい出す
はるか夏尾端 虫はい出す
夏の虫は 野の小道
みすばしつこの花が咲いて
なめみはいている木のほとり
しとくは色に たてが前を
口るか唇を 虫はい出す

一 夏が来れば 虫はい出す
はるか夏尾端 虫はい出す
夏の虫は 野の小道
みすばしつこの花が咲いて
なめみはいている木のほとり
しとくは色に たてが前を
口るか唇を 虫はい出す

新人哀歌

一 いまはどなたもたてられ
死にものゝかをたてて来ておれは
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

二 半歩進めばはけた下
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

三 半歩進めばはけた下
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

四 半歩進めばはけた下
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

山のロザリア

シヤロム

山の麓のロザリア
いつあ一人うたつ水
赤い牧場 日ぐれて
雲の影も
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

一 新かよ成までノシにさく
またあわう またあわう
どこかで
二 山の麓ニツよりさつ
はなれてし はなれても
よりさう

三 山の麓のロザリア
多日も一人うたつ水
風にゆれる花のまっ
草とむらして
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく
新かよ成までノシにさく

三 山の麓のロザリア
またあわう またあわう
この山で
四 山の麓のロザリア
またあわう またあわう
この山で



山男の歌

一 歌さんよく聞けよ
 山男にや聞けるなよ
 山でいかに聞りや
 若者さんだよ

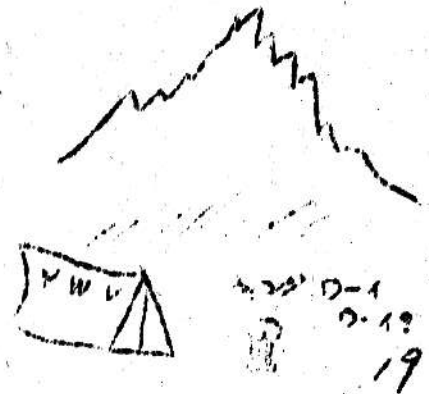
二 歌さんよく聞けよ
 山男に聞けたらヨ
 山にほやめなよ
 山男よく聞けよ
 歌さんの好物はヨ

三 山男よく聞けよ
 山男の好物はヨ
 山のゆりとヨ
 山のメンだよ

四 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ

五 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ

六 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ



トロイカ アルペン教え歌

一 山の白峰は水
 夕の光は水
 山にトロイカ
 はかたかに
 影のまぶさ

二 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ

三 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ
 山男よく聞けよ

一 つばたホイのヨサホイのホイ
 人ばやいんないこの山のうち
 山があるから登るのサホイのホイ
 二 つばたホイのヨサホイのホイ
 山はオイラの山はオイラの山は
 三 つばたホイのヨサホイのホイ
 水の流れとオイラの山は
 四 つばたホイのヨサホイのホイ
 五 つばたホイのヨサホイのホイ
 六 つばたホイのヨサホイのホイ
 七 つばたホイのヨサホイのホイ
 八 つばたホイのヨサホイのホイ
 九 つばたホイのヨサホイのホイ
 十 つばたホイのヨサホイのホイ

入笠山のつた

寺がまだうにきえていつて
 じよつしつはまがくは
 山の天姥はペンキ塗り
 雪が未だそとくノナリ

ニヤツの本かけてススランか
 したつに帰はぬる
 山の天姥は靴を脱ぎ
 雪が未だそとくノナリ

雪が未だそとくノナリ
 山の天姥は靴を脱ぎ
 雪が未だそとくノナリ



残雪

山小屋の心をつまみ
 雪はながゆる
 雪はながゆる
 雪はながゆる

雪はながゆる
 雪はながゆる
 雪はながゆる



山にもこかれ
 雪はながゆる
 雪はながゆる

雪はながゆる
 雪はながゆる
 雪はながゆる

パンダがなーんた!!

パンダはな あんまりいんまのパンダは
 死ぬきがな おいらもいんまうやそみるへと
 パンダにはけたとよ
 日当り山の死ぬきがな
 死ぬきがな あんまりいんまはけたとよ
 キコがな あんまりいんまう
 やそみるへとパンダにけたとよ
 日当り山の死ぬきがな
 そん入るん入るんがな
 ニリやな 手付たごつらニいた
 おら山にもパンダがいるよ
 ランランモカンカンモころつていん
 村最早にニいみんはニ
 パンダはパンダだつてまえろ
 そらそらそらつてまえろ
 死ぬきがな命から守ら進けたして
 死ぬきがな命から守ら進けたして



口をきくた
 パンダがなんた
 日当り山で言ったとよ
 パンダがなんた
 白者がなんた
 ○○がなんた
 招きよ一歩の人
 三中に漢字をうつす人

山へのあり

一 山の青とに... 山へあてれば
 美し... 山へのあり
 二 山の青とに... 山へのあり
 三 山の青とに... 山へのあり

山のけむり

一 山のけむり... 山のけむり
 二 山のけむり... 山のけむり
 三 山のけむり... 山のけむり

希望の南アルプス

一、この山は、南アルプスの峰を
 望むには、甲斐駒ヶ岳の峰に
 登るに、山頂の山頂は、
 峰の頂上、東の山頂は、

二、この山は、南アルプスの峰を
 望むには、甲斐駒ヶ岳の峰に
 登るに、山頂の山頂は、
 峰の頂上、東の山頂は、

三、この山は、南アルプスの峰を
 望むには、甲斐駒ヶ岳の峰に
 登るに、山頂の山頂は、
 峰の頂上、東の山頂は、

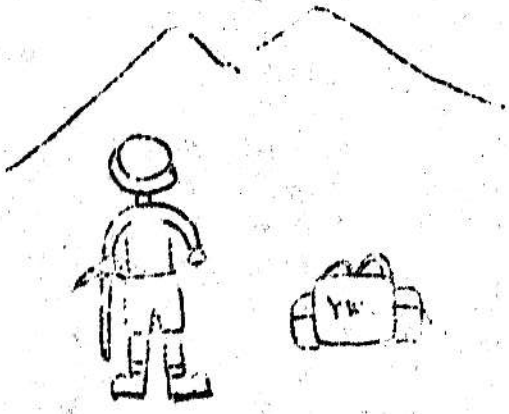
四、この山は、南アルプスの峰を
 望むには、甲斐駒ヶ岳の峰に
 登るに、山頂の山頂は、
 峰の頂上、東の山頂は、

五、この山は、南アルプスの峰を
 望むには、甲斐駒ヶ岳の峰に
 登るに、山頂の山頂は、
 峰の頂上、東の山頂は、

蔵王のうた

一、われら歌う、井にのくに
 青い山あり
 けに山の王者 蔵王
 ああ、燃ゆる火を胸に抱き
 ああ、地に燃ゆる火を胸に抱き
 作らば、想いの胸にはけしく
 所まで行くもの
 この山にわれら歌うやめあり

二、われら歌う、みちのくに
 青い山あり
 志れい山あり 蔵王
 ああ、国分寺で、鹿野の山に
 ああ、別れを告ぐ二つの山に
 若き、あちの胸にはけしく
 深き、あちの胸にはけしく
 この山にわれら歌うやめあり



山の四季

一、吹雪の屋根を風止せて、春の陽はこ
 めとあつに
 沢の雪前も静まり、雪の中の歌を
 二、行こう、あつた
 暑夏の屋根に、あつた
 北の山の、あつたの屋根に、あつた

三、山に金と、今日に、あつた
 三日月の影を、あつた
 いか行こう、あつた
 北の山の、あつたの中に、あつた
 三、山の紅葉に、あつた
 新雪、あつた
 いか行こう、あつた
 北の山の、あつたの中に、あつた

彷徨の歌

— 乙女に恋する歌 —

一、乙女に恋する歌
 草のしとけに恋する歌
 私の言うことか聞きあはれ
 人の運世の思案まうて

二、口笛吹いてあまほらせ
 うつつの夢を見せられ
 くたせられ休む山に見て
 腹がへたれまをきけ

山の歌

一、山の歌
 雪の白々に心あすす
 花の咲く山をめぐらし
 この草せばはして

山をこえて 山をこえて
 燃えあがるこの生命
 山をこえて 山をこえて
 燃えあがる若に生命

27

二、山の歌
 山の峰に心あすす
 雪の白々に心あすす
 花の咲く山をめぐらし

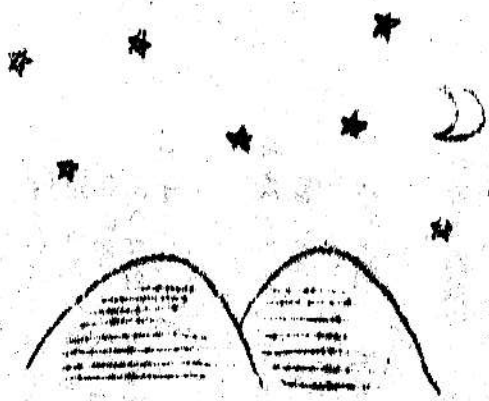
この山をこえて 信じてくれ
 (山をこえて)

山をこえて

一、山をこえて
 はるかたの山は
 山はあつと
 まはたて 山をこえて

二、山をこえて
 せせらめ聞え
 かさめぬ人の
 まはたて 山をこえて

三、山をこえて
 やかてはまると
 あもか山をこえて
 まはたて 山をこえて



28

山の大尉

一 山の大尉は傷ついた
部下の山岳兵たちに
もう一度ここを逃したと
息を吐き止めにこたつけた

二 山岳兵はこたつけた
靴がぬぐいで歩けぬ
靴裏はこたはかんで
山岳兵に逢いたいしと

三 鳥はこし昇る山の朝
山岳兵は訪れた
大尉腹河の命令です
われらはここに普くまじ

四 秋の体をまじ
仰ることを命じます

始めのそれは皇帝へ
部下の兵士の記念にと

五 オニのそれは連隊に
大尉であった記念にと
オニのそれはゆめか母に
息子の兵の思ひ出し

六 オニのそれは愛人へ
ゆめ初恋の思ひ出し
最後のそれは山々へ
ハラで山をめぐらした

ヘルクハイル

一 俺とお前はカイルの縁はれた
若く仲間を助し合つて
雪山を駆け抜けよう
山の女神の手を握らせ
オイヘルクハイルヘルクハイル
歌をはずむせ (ハイン)

二 俺とお前はこたを續け
昔に見 同いし
クラエトめさせけ
めくも野山に歌をほこ
せくも 胸をはずせ (ハイン)

三 俺とお前はハーゲン打つ音
逢ひなす縁に
水壁を登れば吹雪を降れ
明日はあま氣を胸を赤
けくせ

二人の山

一 ぞんけに急ぐと山が逃す
ゆくり行ニラ
あせらず行ニラ
口笛吹いて汗をぬぐ
くすんだとこ
見なれた山
急ぐことはない

二 ぞんけに急ぐと山が逃す
ゆくり行ニラ
あせらず行ニラ
緑のハニカチ者に
かゆい
見なれた山
急ぐことはない

たの山

Part 3

又きりの観望

一 晴れ渡りたる青空 輝き渡る雪原
まき山連なり 火の谷に海が
丘に降りて谷間の木立着りて出で湯へ
雪埋あけつづ いろの裾野に着きぬ
風を切りて滑る雪へも梅とよ 杖を心雪の葉か
今は有らぬ山ははさか
雪山の葉しけ出ぬ かきも印なく目に雪の

31

二 原は孤かな雪空 樹氷凍れり丘の上
まき山崩れまきり 妙雪風になが
友の雪好何処ぞ 風に着け舞う妙雪
吹寄玉りて雪の 別八州にまきりぬ
雪に止めて静をいふ山
高くとびや中絶の山
雪山の葉らたれば かきも印なく目に雪の

雨霧も雪も箱も

一 霧も雪も箱も

山の麓に眼も池も

霧も雪も箱も

紅葉も池も

雪も雪も箱も 風はゆめを吹く

雪も雪も箱も 風はゆめを吹く

雪も雪も箱も 風はゆめを吹く

二 霧も雪も箱も

池に埋り 葉の影も

霧も雪も箱も

胸にひめた雪も

永夏の水河の花

何れもゆめをいしにふとて

霧も雪も箱も 胸にひめた雪も

外は吹雪

一 外は吹雪の夜明けの霧か

この山の湯の屋敷し

二 山は雪の葉りの山麓か

北へはかき山麓雪

三 雪は其谷の深淵か 山の谷か

しほし雪はゆりの花

四 山に花をさす 雪も雪も箱も

雪も雪も箱も

五 雪の山見りや 雪も雪も箱も

雪に降りて身にしほす

32

換歌

一、山を疾め如けり高麗たよ
 言ったお前は何故戻んだ
 俺を病して捨一人
 霧の谷間に消えた影
 あり 切れたサイルは目に涙あり

二、山を青くた友情の
 山をたたくした雪の音
 若くは天跡が
 三つがうの足跡が
 あり 俺は泣き止まかけありたよ

三、夕日の煙が目にしみる
 山のふたまたむせびなく
 二度と山には登らまい
 されかせめての下むけたよ
 清き谷間の花と咲けよ

山びこの歌

お花畑を思ふ合を
 懐かしく思つてくれた人
 木ら 音も響かずにいる
 静かに 静かに 静かに
 木と木と 雲の中から 遠く山びこ

清れた老境をつまづいて
 サツクささるてくれた人
 木ら 地上のまらぬまらぬ
 静かに 静かに 静かに
 * Sadness

月の光を待つ暇に
 焚火守りてくれた人
 木ら 静寂けたまらぬまらぬ
 別れの合図の手さふるまの人から
 * Happy

山行く心

春の山行く人の心は
 雪解の水に同めは春さん

夏の山行く人の心は
 高嶺の花と咲きかき誇らん

秋の山行く人の心は
 空行く風に問わぬ秋さん

雪さしめく雪の縁
 強き心に冬山行く

エレメンタールうさほし

へりれらが染しき
 故郷 エレメンタール
 輝く頂 白銀の嶺
 * ファイテリア ドライアイリアホ



ニ雪端れ静かな谷間の朝下
 つららに新日がまはりと光る
 *

三村では誰かモヨーテル目懐
 おやじも娘もファイテリアで呼ぶ

陽の昇る山の歌

陽に昇る山の峰

山にこぼす朝の光
晴れの空を照らす雲

谷間にこぼす光

・コーハイレーリア

・(ち国くりをじ)

山と川が故郷

手塚うばの国

一 手塚うばの野面に流く

灯もともすきよなた

あふれゆく春の雨に吹さら

手塚うばの野面に流く

一 手塚うばの野面に流く

二 手塚うばの野面に流く

三 手塚うばの野面に流く

四 手塚うばの野面に流く

五 手塚うばの野面に流く

六 手塚うばの野面に流く

七 手塚うばの野面に流く

八 手塚うばの野面に流く

九 手塚うばの野面に流く

十 手塚うばの野面に流く

十一 手塚うばの野面に流く

十二 手塚うばの野面に流く

南の王座

一 峰はうぶに雲海に鳴か

あけ見せぬけよふあ北岳の峰

二 雲を穿ちて飛ぶ鳥の峰

三 若湯へはりつ かつととく

めかめる山は ああ北岳の峰

四 かいしつり かつととく

吹雪頂 ああ北岳の峰

五 ましむ アイゼン 若き閣下

わゆる 金らん ああ北岳の峰

六 七 八 九 十

南の王座 ああ北岳の峰

